

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨古城特別支援学校

学校番号

118

自己評価

学校教育目標	地域で育ち、学び、共に生きる。 ・児童・生徒が、生まれ育った地域で、いろいろな人たちと共に生活をしていくために、一人一人の障がいの状況や能力に応じて、個々のもてる力を高める。	
評価する領域・分野	教育活動・学習指導	
現状及びアンケートの結果分析等	・教育方針の項目において、昨年度と比較し先生と生徒との望ましい信頼関係に立脚した支援について成果が表れているとの高評価を得ている。 ・教職員、授業の項目において、児童生徒一人一人に合った教材・教具の工夫と体験的学習を積極的に取り入れた実践について、昨年度よりもA評価が6～13ポイント向上しており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援に高評価を得ている。 ・教職員の項目において、専門的知識、資質について厳しい評価をいただいている。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・一人一人の教育的ニーズに応じて、個々の可能性を最大限に発揮できる教育的支援をする。 ・地域の教育的資源を活用した体験的な学習を実施する。	
重点目標を達成するための校内組織体制	・主事会及び企画委員会 ・各学部会 ・全校研究会及び研究授業 ・職員研修会	
目標の達成に必要な具体的取組	・地域の教育資源を活用した授業実践 ・職員研修による授業力向上	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒は意欲的に学習できたか。 ・児童生徒一人一人に対する支援は適切だったか。 ・体験等をとおして、笑顔で生活する力を育成することができたか。	
取組状況・実践内容等	・各学部1回ずつ全校研究授業を実施する中で、地域の方々に講師として支援方針、評価の視点の共通理解を図りながら単元を通してかかわっていただく取組を行った。 ・KJ法について職員研修を行い、授業実践における課題の洗い出しとその解決に向けた具体策立案の方法について学び、研究授業の取組を次の実践につなげることを大切に取り組んだ。	
評価の視点	評 価	
①毎日充実した学習であったか。	A (B) C D	
②地域の教育資源の有効な活用の工夫ができたか。	(A) B C D	
③児童生徒が主体的に取り組める授業内容の工夫に取り組めたか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	

<p>○全校授業研の取組において、児童生徒の指導目標や評価の視点・方法などについて、支援していただく地域の方との事前打ち合わせを綿密にしたことによって、児童生徒は授業の中で自ら人に関わろうとする意欲や活動の達成感を味わうことができた。</p> <p>▲「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」などを作成する中で、支援内容について明確にすることがまだまだ不十分である。次年度の計画を作成するなかで、より明確できるようにするために評価の観点、方法について検討をしていく必要がある。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度取り組みを始めたK J法による授業検討を継続し、実行対策シート作成を通じて具体的な改善策を見出し取り組んでいくという過程を大切にしていきたい。 ・地域の方々の指導力活用について、児童生徒の実態と指導目標、評価の視点などをどのようにして伝え、共通理解を図って授業に臨んでいくか、その方法の工夫にさらに取り組んでいきたい。また、今年度新しく取組を始めた校内作業実習への協力企業や保護者の参加について、さらに充実させていきたい。 ・校内研究について、研究グループの工夫により深まりのある研究討議の実現を目指していきたい。 ・授業公開を行い、職員がお互いの授業を見合っ、意見交換することでより良い支援を模索していきたい。 ・一人一人のニーズに対応した支援内容について、保護者等への説明を十分に行い、共通理解の下での支援に努める。

学校関係者評価 (平成29年3月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を通じて学校の活動を参観したり、参加したりすることによって、学校の取組を知ることができる。そのことが、さらに地域として一緒に何ができるか考えられることへとつながっていくので、今後も地域の教育資源活用を進めていってほしい。 ・校内作業実習について、協力企業関係者と共に地域として参加し支援していけるとよいと考えている。区長を通じて学校での取組を紹介し、参加について学校と一緒に考えていくこともできるのではないかと思う。
--

(様式例)

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨吉城特別支援学校

学校番号

118

自己評価

学校教育目標	地域で育ち、学び、共に生きる。 ・児童・生徒が、生まれ育った地域で、いろいろな人たちと共に生活をしていくために、一人一人の障がいの状況や能力に応じて、個々のもてる力を高める。
--------	--

評価する領域・分野	安全管理
現状及びアンケートの結果分析等	・その他の項目のうち安全管理に関する事項については、昨年度と比較しA評価が13.3ポイント向上しており、B評価も合わせると9割以上となり高評価を得ている。 ・気象変災時の対応について、図式化し各担当の果たすべき役割とその流れの整理に着手することができた。 ・車椅子使用の児童生徒の避難について、現時点で考えられる方策として担架や抱いての避難が想定される。避難の手順について、2階にいた場合まず防火扉を隔てて火元から遠い場所へ平行移動し、その後必要に応じて屋外避難するというような方法を検討しシミュレーションを行う必要がある。 ・不審者対応訓練を飛騨警察署の協力で実施している。シミュレーションは、2回行い、1回目で課題分析2回目に対応方法の実践を行っている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・安心して、学校生活を楽しむことができる状況づくりを進め、児童生徒一人一人の自己表現を促す。
重点目標を達成するための校内組織体制	・主事会及び企画委員会 ・各学部会 ・危機管理委員会(防災対策委員会) ・分掌会(保健安全部、生徒支援部、教務部)
目標の達成に必要な具体的取組	・学校安全計画に基づき児童生徒の教育環境の安全管理徹底と実態に応じた防災教育を実施する。 ・気象変災を含めた災害時の対応について、図式化するなどして整理する。 ・災害時の児童生徒の安全確保に係る方法の検討と必要物品の整備をする。 ・不審者侵入を想定した訓練を警察の指導の下に実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・非常時対応に関する職員の意識向上と具体的対応方法の検討・共通理解はできたか。 ・児童生徒に対する防災教育は、一人一人の実態に応じていたか。 ・不審者侵入への対応を適切に理解し実践できる準備は進められたか。
取組状況・実践内容等	・各月1回、命を守る訓練として「緊急地震速報対応訓練」ないしは、「地震・火災の発生にかかる対応訓練」を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・気象変災時対応について図式化した。 ・児童生徒の実態に応じた避難方法の検討、必要物品(担架)の購入をした。 ・授業参観、保護者懇談会を利用し、PTAと連携した防災に関する取り組み(「我が家の防災」アンケートの実施を含む)を行った。 ・不審者対応訓練を実施し、指導事項を参考に防犯対策の備品(可動式のさすまた)を購入した。 ・外来者に対する事務室での受付簿記入の徹底。
評価の視点	評価
① 児童生徒の安全を守るための具体的な取組ができたか。	A (B) C D
② 非常変災時における対応に関する職員の共通理解を図ることができたか。	A (B) C D A (B) C D
③ 児童生徒一人一人の実態に応じた防災教育実施の工夫はできたか。	
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○気象変災時の対応について、図式化し各担当の果たすべき役割とその流れの整理に着手することができた。 ○災害時の児童生徒一人一人の実態に応じた避難方法について検討し、必要な物品(担架)を整備した。 ○PTAとの連携による防災の取組(授業参観の活用、「我が家の防災」アンケートの実施)ができた。 ▲災害時の避難方法について、さらにより安全で確実な方法の検討を継続していく必要がある。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外避難以外の安全確保を考えた、命を守る訓練の工夫を行う。 ・児童生徒一人一人の実態に応じた防災教育のさらなる工夫。 ・PTAとの連携による防災の取組の継続。 ・不審者対応に係る地域との連携方法の検討。

学校関係者評価 (平成29年 3月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドなどを使い、安全な避難誘導ができるように徹底した取組をしていただきたい。 ・二階からの避難など、実際の避難場面においてスムーズな避難が実施できるようにシミュレーションを重ねていただきたい。 ・児童生徒の安全を守ることが何よりも優先される事項である。地域と一緒に何ができるかを考えていけるとよい。 ・情報の伝達が、非常の対応にとっては重要事項となる。現在活用しているメール配信について、今後も運用の工夫を続けていただきたい。
